

☆☆めざす児童像：「元気な子 気づく子 学ぶ子」☆☆

大村市立大村小学校
学校だより

感じて動く

文責：校長 高木 修
令和4年12月7日 No.16

☆☆子どもが「喜んで登校し 満足して下校」する学校づくり☆☆

◆ 2学期もあとわずか



つい先日、2学期が始まったように思っていたのですが、気付けばもう12月です。あんなに暑かったのに、すっかり気温も下がり、朝は手袋を着けて登校する子も増えてきました。マスクをしてるために気づかずにいましたが、いつの間にか吐く息も白くなっていて、確実に冬が訪れていることを感じる今日この頃です。

新型コロナウイルスの感染拡大も第8波に入ったと言われており、現在、感染段階はレベル2-I（警戒警戒）となっています。これまで同様、気を緩めることなく感染対策を講じながら、2学期のまとめをしっかりと行っていきたいと思っています。保護者の皆様、引き続き、御協力をよろしくお願いいたします。

◆ 研究発表会終了



学校では、「校内研究」という場を設定し、共同で教育実践に取り組むことで、教師としての資質向上や学校力の向上を目指しています。本校は、大村市教育委員会の研究指定を受けており、3年間、「気づき、考え、深め合う子どもの育成」という研究主題を掲げ、「校内研究」に取り組んできました。研究内容は、「深い学びをつくる国語科の読みの授業づくり」と「特別支援教育の情報発信」です。



6年3組の授業風景

この研究の積み重ねを公開する場が、11月25日（金）の研究発表会でした。代表で、2年1組、4年3組、6年3組、おひさま・そよかぜ学級（4年生）が授業を公開したのですが、それぞれの先生方の頑張りはもちろん、子どもたちが真剣に授業に臨む姿はとても素晴らしく、私はとても誇らしく思いました。約60名の先生方の参加があり、各分科会で感想や意見をいただきましたし、指導主事の先生からの指導助言もいただきましたので、さらに子どもたちが「深い学び」ができるよう、これらを授業改善の材料にしていきたいと考えています。

残念ながら惜しくもベスト8には届きませんでしたが、ワールドカップサッカーでの日本チームの快進撃には、心が躍りました。校長会で購読している「小学校時報」という冊子の中に、今回の快進撃にぴったりの記事があったので御紹介します。

「だから続けよう」 オルカ鴨川FC ゼネラルマネージャー 北本綾子

「奇跡といっても、自然に起きるわけではない」

元サッカー日本代表監督イビチャ・オシム氏の言葉だ。

努力が必ずしも勝利（成功）という結果に導かれるものではない。

むしろ、そうした結果で報われないことが多いというのは世の常だが、勝負やチャレンジにおける奇跡というのは、努力の先にしか起きないというのは、サッカーに限らず多くのことに言える。そして、そのプロセスにも価値がある。何かをやる前から負けを認めたり、諦めたりしたら、敗北（失敗）から学ぶことはない。

大人が自ら学ぶことをやめず、チャレンジを続けていくことが、子ども一人一人の輝く未来に繋がると信じている。

※ 学校でも、教師が自ら学ぶことを続け、教育実践を重ねていけば、その分子どもたちも学ぶ姿勢を身に付け、力をつけていきます。子どもたちの成長した姿を思い浮かべながら、これからも校内研究等で学びを重ねていきます。

